

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2771300288		
法人名	社会医療法人慈薫会		
事業所名	グループホームひまわり河崎		
所在地	大阪府貝塚市水間183番地		
自己評価作成日	平成 28年 10月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 11月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2771300288-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2771300288-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 10月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いリビングの窓から、四季折々の風景を眺めることができ穏やかに過ごせる。法人の病院と隣接しており、医療連携がとれ、利用者・家族が安心されている。デイケアや保育所がホームの1階にあり、地域の方と顔なじみになり、話ができる。認知症対応型通所介護の事業も行い、グループホームの特性を活かしたディサービスを提供している。認知症カフェに取り組み、地域の方との関わりを大切に相談などに応じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成10年度に、国が全国25カ所指定したグループホームのモデル事業の1施設として設立されました。広いスペースのリビング・ダイニングルームがあり、大きな窓越しには山々や家並みが見え、四季を感じることができます。隣接の病院との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がっています。理事長は、「日本認知症グループホーム協会」の役員として、先駆的・先導的な役を果たしながらサービス向上に努めています。「利用者のことを一番に考える」「利用者が希望される暮らし方を実現する」考えが現場に浸透し、実践しています。認知症対応型通所介護や認知症カフェの実施等、地域との関わりにも積極的に取り組んでいます。「スタッフが一生懸命に利用者に関わってくれることが事業所の自慢です」と言う管理者と職員の信頼関係の下でのケアは、利用者の表情は活き活きとし、ホーム全体が明るい雰囲気となっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義や役割を十分に理解し、理念に基づき、毎月具体的に職員の目標を設定し、日頃から職員に助言・指示を行い実践につなげている。	「利用者様に、家庭的な環境で安心と尊厳のある生活を送っていただくため、利用者皆様の残された能力の活用・維持を図り、楽しく・充実した生活が営まれるよう努力いたします」の理念を職員間で共有し実践しています。毎月、理念に基づき目標を設定し、理念の実践を具体化しています。10月の目標は「必ず笑顔で声かけしよう」です。 理念はホーム入口に掲示し、家族や地域の方達へ理解してもらっています。また毎月の目標は、運営推進会議や「ひまわり便り」でも紹介しています。理念に沿った日々の支援は、利用者の表情やホーム内の明るい雰囲気から伝わってきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	戸外散歩時に挨拶をしたり、地域の行事に参加するように努めている。 ボランティアの方々にも定期的に来ていただいている。	地域との交流には積極的に取り組み、まつりやイベントにも参加しています。 桜の季節には、近くの喫茶店に行き、近所の方達と一緒に花見を楽しみます。近くのリハビリ大学との交流もあり、学生と一緒に「じゃがいも植え」や「芋ほり」等の園芸療法を楽しんでいます。歌・踊り・三味線等のボランティアの訪問も利用者の楽しみのひとつです。 認知症対応型通所介護や認知症カフェの実施等、地域との関わりにも積極的に取り組んでいます。認知症カフェの取り組みでは、回を重ねるごとに参加者の利用者への声かけに変化が見られ、認知症に対する理解が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ(オレンジカフェ)を毎月開催し、講演や相談を通じて、地域への認知症の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者へのサービス状況などを報告し話し合っている。            市職員・民生委員の方より、意見や助言をいただき、それを参考にケアの向上に活かすようにしている。</p>	<p>民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、利用者の参加で定期的に開催しています。会議では主に、ホームの状況や行事の内容、研修実施報告、今月の職員目標等を報告・説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。            フランクに話せる雰囲気の会議で、管理者はホームで困っていることなどを相談し、助言を得ています。野菜や切干大根の作り方、梅のつけ方を教えてもらったり、ひまわりカフェのチラシの置き場所の助言を得ました。            会議はフロアで開催し、参加者に利用者の過ごし方を理解してもらっています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>日頃から高齢介護課の窓口や電話で質問し、相互理解の上サービスに取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者とは、いつでも相談できる関係にあります。ひまわりカフェに市職員が参加することもあり、カフェの進め方についてアドバイスをもらいました。市の事業者連絡会には市の担当者も参加し、情報の交換と連携を深めています。            近隣の5市1町相談事業による認知症相談支援センターにも参加しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	理解した上で、身体拘束を極力しないようにケアを行っている。	<p>身体拘束ゼロ宣言をして、ホーム入口に掲示しています。身体拘束廃止についてのマニュアルを作成し、研修も実施しています。現在、座位保持が困難な利用者に一時的に安全ベルトを使用する事例がありますが、家族への同意や会議や記録など、手順を踏んで実施しています。</p> <p>他県で起きた障がい者施設の事件で、管理者は、職員の利用者に対する意識の持ち方を指導しました。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	常に管理者、全職員が意識を持って注意・観察を行い、防止に努めている。		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	制度を理解し、必要に応じて家族や担当者と連絡をとり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>            契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ゆっくり丁寧に説明している。            疑問があれば納得されるまで説明している。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>            利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置している。            アンケートを行っている。            家族の面会時近況報告し、コミュニケーションを十分とっている。            事業所便りで近況報告している。            運営推進会議後、運営推進会議録を家族に送付している。            問題や相談が発生時すぐに電話にて報告している。            利用者の気持ちを聴き取り、スタッフ間で話し合っている。</p>	<p>家族の面会時にはその都度声かけして利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いています。家族からの要望や意見は、申し送りノートに記載し職員で共有しています。            ホームでの利用者の生活が伝わる写真入りの「ひまわり便り」を発行し、家族に送付しています。            家族の昼食試食会実施の際は、ゲームも楽しんでもらって、利用者・家族に好評でした。今後も、家族に気楽に参加してもらえるイベントを企画していく予定です。</p>	<p>今後ひまわり便りに、「職員からひと言」の通信欄を設け、利用者一人ひとりの様子を家族に伝える工夫を検討されたいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からショートミーティングを行い、職員間でお互い意見交換している。職員の意見を聞き、改善すべきところは相談し質の向上に努めている。	管理者は笑顔を心がけて、「職員が楽しく働ける環境づくり」を目指しています。日常的に意見や希望が言える環境です。毎日のミーティングで自由に意見を出し合っています。管理者は、職員から出された意見や提案は「やってみよう」を合言葉に取り入れています。「職員が一生懸命に利用者に関わってくれることがホームの自慢です」という管理者の姿勢は、職員の士気を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に対応して、向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修に積極的に参加できるよう法人が支援している。勤務体制も配慮している。内部研修で伝達研修している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会とグループホーム協議会研修や相互研修で交流できる機会が増えている。 市のグループホーム部会に参加している。 他施設を参考にして、サービスの向上につなげている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の状態観察を行いながら、コミュニケーションを十分にとり、信頼感が持て安心できるように努めている。 コミュニケーションがとれない方の場合、家族から情報提供してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や問い合わせの時など、インタビューを大切に心がけている。 コミュニケーションを十分取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から話や現在の状況を十分に聞き取り、必要とされている事を見極めて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているということを念頭におき、出来る事を見守りながら、支えあう関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に催し事などは早めに情報提供し行事に参加していただけるように促している。 家族と一緒に過ごす時間を持つように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の事情を踏まえた上で、訪問を受け入れている。 馴染みの場所へは、家族に協力をお願いして支援している。	家族の協力を得ながら、家族と定期的にお寿司を食べに行ったり、親戚の家に行く、盆・正月に外泊する利用者がいます。孫の結婚式に出席する際の支援も行いました。通所介護利用者とうことを楽しみにしている利用者もいます。 梅ジュース作りや、綿の種取りでは、昔とった杵柄を發揮してもらいました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの見守り・援助を通じて、日常生活を互いに協力し支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後(隣接の医療機関に入院された方など)も訪問を受け入れている。 家族からの相談も受け入れている。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報シートなどを参考にして、本人の気持ち・思いを聞き、意向に添えるよう努力している。 本人からの聞き取りが難しい場合は、家族の協力をお願いしている。	利用者一人ひとりと日常的な支援やコミュニケーションをとる中で、利用者の気持ちを察してケアに活かしています。また、家族との会話の中で利用者の思いや希望を把握するように心がけています。把握した情報は、ミーティングで報告したり、メモに残して職員間で共有しています。	日常の関わりの中での気づきや発見は記録に残して職員間で共有し、よりその人らしい日々の支援に活かすことが期待されます。「気づきノート」など用意されてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにしているが、日々の関わりの中で本人・家族からの情報を積み重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の援助及び日々の観察とコミュニケーションで把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人または家族と話し合い、ケアカンファレンスを行い、職員間で情報交換し、介護計画を作成している。</p>	<p>利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画です。カンファレンスを毎月実施し、その都度現場の意見を聞いています。カンファレンスに出席できない職員には、計画作成担当者が事前に直接聞き取り、介護計画書に反映させています。見直しは基本6ヶ月毎ですが、状態に変化があった場合は随時見直します。</p> <p>計画作成担当者は「計画書を見たら、名前を見なくても誰のものかわかる介護計画書づくり」を心がけています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録、夜勤者からの情報提供など、気づきは申し送り時に伝えている。ショートミーティングとカンファレンスでの意見交換し随時見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時の状況に応じ、訪問診療・訪問介護など利用し支援できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々や茶道の先生に来ていただき、生活に変化をつけ楽しみを感じられるように支援している。 近隣の大学から学生が来て、園芸療法に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供している。 病院に併設の利点と連携を活かし、初診の場合は家族と共に付き添い、希望を聞いている。 利用者の状態に応じて、医療機関を紹介し家族に受診依頼している。	入居時に利用者・家族の意向を確認しています。希望があれば入居前のかかりつけ医に受診可能ですが、利用者の多くは、同敷地内に隣接する母体法人の病院をかかりつけ医として選択しています。夜間の緊急対応も併設病院と連携がとれる体制で、利用者・家族の安心に繋がっています。医療との連携は、職員の心の安心にも繋がり、職員の定着の要因のひとつとなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置有り 気づき、異常の早期発見など介護職からも看護師に報告し相互で情報交換して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当医、病院の看護師、ケースワーカー、栄養科、リハビリテーション科などと日頃より連携をとり、情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会時に話し合っている。 必要時は医師の診察時に、家族と一緒に病状説明を聴いて、相談を受けるようにしている。 看取りに関する指針を作成し入所時に家族に説明している。	入居時に、利用者・家族へ終末期の支援方針を説明しています。「看取り指針」を整備し、同意を得ています。 看取りに関する研修や緊急時対応、緊急時体制も整え、看取りの希望があれば、同意書を交わしています。 看取りの際には、訪問看護の協力が、職員の不安を軽くしてくれています。 「最期までその人を大切にしよう、最後まで楽しみを味わってもらおう」との考えで看取りの支援をおこなっています。 甘いものが好きだった利用者に甘いものを食べてもらったり、最後はフロアで皆の気配を感じながら過ごしてもらったり、利用者第一の看取りの支援です。職員は、ホームでの看取りの経験から貴重なことを学び、「大切な贈りものをして亡くなった」と感謝し、日常のケアに活かしています。	マニュアルを改正する際は、職員の不安や整備して欲しいことなど出し合い、現場に即したマニュアルを作成されたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>            利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルで各自学習する。            不明な点は看護師に確認し、各自対応できるようにしている。            法人の病院内の研修会に参加し、実技訓練など行っている。</p>		
35	13	<p><b>○災害対策</b>            火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設の病院との緊急連絡体制を整備している。            避難訓練を実施している。            非常持ち出し袋を準備している。</p>	<p>年2回、避難訓練を行い、避難経路の確認をしています。訓練の様子は写真と共に記録しています。各居室の扉からはそれぞれベランダへ出ることも可能です。非常口はいつでも開けることができます。市の災害担当職員による研修の後で、災害対策・備蓄などの見直しが行われました。災害時用に紙おむつやペーパー類、非常持ち出し袋を準備しています。食糧についてはお米や水等準備できています。災害時は、避難拠点の指定を受けているので、支援物資が届くようになっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より個人情報や人格の尊厳に留意して関わっている。	倫理綱領が作成され、ホーム入口に掲示されています。 管理者は、職員に日常の中で利用者の尊厳に配慮したケアについて、具体的に伝えています。言葉遣いや呼びかけ方についても、利用者の立場に立つ配慮を心がけています。 居室ドアのガラス部分に、透かし模様の色紙を貼り、プライバシーが保たれる工夫もしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合わせて、わかりやすい表現(ことば)で伝える。 個々によく聞こえるよう耳元で説明し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、利用者それぞれの生活リズムで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を支援している。 催し事や外出時は一緒に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者ができることを見つけて手伝ってもらい、見守りながら支援している。	食事についてご飯と汁物はホームで調理し、副菜やおやつは隣接する病院から、利用者の嚥下状態に合わせて調理され運ばれてきます。職員は、盛り付けの手伝いや食材の下処理、テーブル拭き、梅ジュース作りやジャガイモ植えなど、利用者に見えることを見つけて手伝ってもらっています。市から無料でもらったゴーヤの苗をベランダで利用者と一緒に育て、利用者と一緒に調理しました。好き嫌いのある方へは別メニューを提供しています。時にはお好み焼きパーティーをすることもあり、利用者に喜ばれています。職員は、利用者に声かけしながら食事介助をした後で同じ物を食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況に応じて支援している。 とろみを使用したり、食事形態を変えている。 食欲がない場合には、好みの物を食べてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と寝る前の歯磨きやうがいを、声かけ見守りで実施している。 清潔にして感染予防に努めている。 必要時歯科の往診をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけと定時の誘導など、一人一人の排泄パターンを把握して援助している。 プライバシーに配慮しながら、トイレで排泄ができるよう習慣づけ支援している。 一人介助が難しい利用者は、二人介助でトイレに誘導している。 必要な場合、ポータブルトイレも組み合わせ合わせて支援している。	基本はトイレでの排泄です。重度化に伴い、二人介助で対応する利用者も多くなっています。職員は排泄チェック表に細かく記載し、それをもとに利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。利用者の状況に合わせて、さりげなく声かけ、誘導、見守り等行っています。 退院時、オムツを使用していた利用者が、排泄パターンを把握しての誘導で、日中リハビリパンツに替えられたケースがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認とケアチェック表を活用している。 個々の排便習慣に合わせて声かけしている。 水分補給に配慮している。 受診時に医師と相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調等を確認し、希望に応じて入浴できるようにしている。 機械浴も利用している。	利用者は週に2～3回入浴しています。ホームでの入浴が困難な場合は、併設デイサービスの機械浴を利用する等、利用者にとって安心・安全な入浴をしています。また、急な入浴に備えて衣類を脱衣所へ置いている利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	なるべく日中ホールで過ごせる よう室内で出来る事を一緒に している。 昼食後は自室で休息・仮眠など、 自由に過ごし生活に変化を つけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	処方箋で内容を確認している。 個別の服薬確認(ケアチェック 表)と援助をしている。 個々の薬の内容をスタッフがすぐ に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	本人が出来ること、したいこと (家事など)と一緒にしていただき 、役割での達成感を感じたり、 気分転換できるように支援して いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を兼ねて施設周辺の花を見に出かけている。 家族の協力を得て、買い物や外食で少し遠くに外出している。 毎月地域のカフェに出かけ、交流している。	利用者は近隣の散歩や花見・公民館祭り・オレンジカフェ・紅葉見物・買い物等出かけています。毎月の地域のカフェには利用者が2～3名ずつ交代で行っています。近くの農園へ大根引きやさつま芋堀りに出かけています。通院や外食、親族の結婚式や法事に出席したり、盆と正月に帰宅するなど家族の協力を得ながら外出支援をしています。車イス使用の利用者も多くなり、職員は利用者の外出の機会が少なくなっていると課題に感じています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、お小遣いを持っていただくが、家族からお金を預かりいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に心がけている。 季節感、生活感が感じられるように心がけている。 室内の飾り、絵なども利用者と一緒に制作し、季節ごとに変えて楽しんでいる。	広いリビングは大きな窓で、陽あたりがよく、四季の移り変わりがよく見えます。ベランダには、季節の花々がプランターに植えられ、手入れが行き届き、優しさを感じる環境です。ソファがいくつも置かれ、利用者は思い思いの場所で寛いでいます。壁面には、利用者と職員が作成した、季節毎の壁飾りや行事の際に撮った写真を飾っています。 リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、家庭的な雰囲気です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を状況に応じて配置、思い思いに過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れ親しんだ物を持ち込んで使っている。	円形の建物の外側に沿って並んでいる居室は、全室ベランダ側に位置しており、出窓とベランダに通じる扉があります。居室の入口には、近郊のリハビリ大学の学生と一緒に押し花を利用して作った表札が飾られています。居室にはベッドと椅子、洗面台があり、どの部屋も明るく室内は整えられています。利用者は、タンス・時計・テレビ・家族の写真や書・カレンダー・ぬいぐるみ・観葉植物等思い思いの品を持ち込み居心地良く過ごせるように工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った役割を声かけ、見守りで支援している。 自分ができること、やりたいと思うことができ、安心・安全に自立した生活ができるようにしている。		